

萩尾看護部長のエッセイが、10月23日付けの南日本新聞の読者文芸欄に掲載されました。

読者文芸

読者文芸

俳歌 吟遊

若い同僚が、何か患者さんのためになることをしたいと言った。フルートを吹く彼女は音楽仲間と呼びかけ、病院内の食堂を会場にした手作りコンサートを企画した。食堂に折々の花を添えている私は、その会場に花を飾ることを喜んで引き受けた。

職員やご家族から、それぞれの庭の紫陽花が届けられ、一夜にして食堂には花が咲いた。車いすが多くを占める客

待つ

〈紫陽花で埋めし会場客を
車椅子席の四葩を低く活
演奏会が始まると、フル
トは紫陽花の色のような

奏者もその反応を読み、情
感豊かに曲を披露された。
「浜辺の歌」「朧月夜」。思い
出の曲がホールを満たし、
窓の外へと流れた。「うさぎ
追いし…」の合唱もあり、感
動した。

（俳誌「天日」誌友）

あじさいコンサート

萩尾 葉月

萩尾部長は、上迫和海先生が主催されるひとみ句会に、月に2回参加して、俳句に親しんでおられます。

今回、当院のあじさいコンサートの様子を俳句にしたものが、俳句雑誌『^{てんじつ}天日』の巻頭に選ばれ、南日本新聞への寄稿につながったとのこと。

ちなみに萩尾部長の俳号は「葉月」ですが、当院の職員の親睦会も「葉月会」です。偶然ですが、何かしらのご縁を感じます。

「俳句は難しいものと思われているかもしれませんが、誰でも、いつでも始められます。ぜひ、一度俳句を作ってみませんか。」(萩尾部長談)

あじさいコンサート

第1回院内コンサート

2008年 6月 8日(日)
14:30 ~ 15:30
上山病院 4階 食堂

【演奏曲目】

浜辺の歌
ふるさと
赤とんぼ
ほか

【フルートアンサンブル】

堀立早馬
田元川場
由昌久
美代司美子